ボーリング柱状図

調　査　名

事業・工事名

ボーリングNO.

シートNO.

ボーリング名	No.2(測点No.109+5.0)	調査位置				北　緯	36 ° 48 ’ 45.0000 ”
発注機関	栃木県大田原土木事務所			調査期間	2009-02-09 ～ 2009-02-11	東　経	140 ° 01 ’ 09.0000 ”
調査業者名		主任技師		現場代理人		コア鑑定者		ボーリング責任者	
孔口標高	165.18 m	角度	180° 上 90° 下 0° 0.00 °	方向	北 0° 東 90° 南 180° 西 270°	地盤勾配	鉛直 90° 水平 0° 0.00 °	使用機種	試錐機	ハンマー落下用具	
総掘進長	12.30 m								エンジン	ポンプ	

標尺 (m)	標高 (m)	層厚 (m)	深度 (m)	柱状図	土質区分	色調	相対密度	相対稠度	記事	地層岩体区分	孔内水位 (m) ／ 測定月日
1	163.38	1.80	1.80		玉石混じり砂礫 (GS-B)	暗灰	非常に密な		上部10cmは粗砂主体 以深,φ2～75mm程度の円礫およびφ100～300mm程度の玉石主体である 礫間は粗砂で充填されるが,ややルーズである		02/10 0.40
2	162.13	1.25	3.05		粘土混じり砂礫 (GS-C)	暗褐灰	非常に密な		礫はφ2～50mm程度の円,亜円礫を主体とする 礫間は粗砂および粘土で密に充填されている 2.6～2.8m間は粘土多く黄褐色を呈す		
3	160.78	1.35	4.40		粘土質粗砂 (CSC)	褐灰	密な		全体に粘土の混入が多い 粗砂主体で固結土は高い		
4											
5											
6											
7											
8											
9											
10											
11											
12	152.88	7.90	12.30		粘土混じり砂礫 (GS-C)	暗褐灰	非常に密な		礫はφ2～50mm程度の円,亜円礫,風化礫主体 礫間は粗砂および粘土で密に充填されている 全体に固結度は高い 所々にφ100～150mm程度の玉石が点在する 7.0～7.8m間は礫主体で粘土の混入は少ない 8.0～8.3m間は粗砂主体で礫混じり粗砂状呈す 全体に風化礫が多く混じる		

標準貫入試験

深度 (m)	10cmごとの打撃回数 0－10	10－20	20－30	打撃回数／貫入量 (cm)	N値
1.15			17	50/9	>50
1.44	18	15		50/29	
2.15		6		50/2	>50
2.27	44			50/12	
3.15					
3.45	7	9	14	30/30	30
4.15			10	50/4	>50
4.39	13	27		50/24	
5.15	50			50/7	>50
5.22	7			50/7	
6.15		16		50/6	>50
6.31	34			50/16	
7.15		9		50/3	>50
7.28	41			50/13	
8.15			18	43/30	43
8.45	12	13		43/30	
9.15		9		50/2	>50
9.27	41			50/12	
10.15	50			50/10	>50
10.25					
11.15		25		50/7	>50
11.32	25			50/17	
12.15		18		50/5	>50
12.30	32			50/15	

原位置試験 深度 (m)	試験名および結果

試料採取 深度 (m)	試料番号	採取方法	室内試験	掘進月日
				02/10
				02/11
				02/12